

鳥獣保護管理調査コーディネーター

岸本 真弓

株式会社野生動物保護管理事務所
関西分室

《東京都第001号認定鳥獣捕獲等事業者》

対象鳥獣
ニホンジカ

活動地域
鳥取県

事業内容

県内全域のニホンジカの生息密度指標調査及び生息環境調査

事業の背景

鳥取県では、平成20年度からニホンジカの生息実態調査を開始し、平成22年8月にはニホンジカ保護管理計画を策定した。その後も生息実態調査を継続的にモニタリングしている。県内のニホンジカの生息動向を把握するために、糞塊密度調査による生息密度調査の実施と生息環境調査を実施する。この他、階層ベイズモデルを用いて市町村別の個体数推定と指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲計画についてアドバイスする。

依頼を受けて実施した内容

県内で最も密度の高い県東南部では捕獲圧が効を奏し生息密度増加率が他地域に比べて低い。このことで県内全域の個体数上昇がある程度抑制されていることが明らかとなった。また、数年前から実施してきている森林衰退状況調査によって、県内のシカ密度の指標となる植物を特定し、森林へのシカの影響度を測る目安を確立した。この調査結果から、分布情報の少ない県央、西部地域でも森林への影響は始まっていることを示してきた。事業ではこの他これらの結果をもとに、階層ベイズモデルを用いて市町村別の個体数推定と県全体の今後の推移予測を行っている。



写真1：
シカ密度が低い森林
（下層植生が繁茂している）



写真2：
シカ密度が高い森林
（下層植生が消失している）

鳥獣保護管理調査コーディネーターは、関係する調査の知識や高い技術をもっていることは当然のことながら、調査を通じて地域にあった手法や指標を開発、設定していくことが求められる。今後は植物側の指標を基軸に密度指標との関係性から適切な密度設定を試み、科学的な根拠を持って本県の二ホンジカ管理の具体的目標を設定できるように尽力した。